

『星陰りて、謀り響く』
オープニング台本
陰謀論者のマードーミステリー

ネタバレ防止用ページ

オープニング台本

ファロス灯台爆破計画のため、フーガ・シンフォニー・セレナーデ・ララバイ・キャロル・カプリッチオの6人は、夏音の隠れ家に集まっていた。

作戦決行は11月30日。日の出直後の6:50、仕掛けた爆弾が跡形もなく灯台を吹き飛ばすのだ。しかし――。

リビングの時計を見ながら、シンフォニーが言った。

シンフォニー 「フーガが遅いですね。もう、時間ですが」

しかし6:40を過ぎても、フーガだけは1階のリビング・ダイニングに降りてこない。

腕時計を見ながら、セレナーデが質問した。

セレナーデ 「私たちだけで作戦を行うのでしょうか？」

ララバイが首を振って答えた。

ララバイ 「いや、今回はフーガが指揮をとる、って言っていたよ」

それきり押し黙った一同には、いたずらな時間をきざむ秒針さえ煩い。

次に口を開いたのは、キャロルだった。

キャロル 「このままでは作戦が開始できない。誰か、呼びに行ったらどうだ」

カプリッチオが応じた。

カプリッチオ 「私が行く」

しばらくしてカプリッチオが戻ってきた。フーガの姿は、見えない。

キャロル 「カプリッチオ、どうした？ フーガは？」

カプリッチオ 「全員、その場から動くな。両手を上げろ」

ララバイ 「ど、どうしたんですか、カプリッチオ？ フーガに何が！？」

カプリッチオ 「フーガは……フーガは殺された」

セレナーデ 「殺された！？ 誰に！？」

カプリッチオ 「この中の誰かだろう」

シンフォニー 「裏切り者がいる、ということですか？」

(以下、カプリッチオの咳払いまで自由ロールプレイ)

騒然とする一同に、カプリッチオが咳払いをした。

カプリッチオ 「裏切り者を暴き、新たなリーダーを選ぶ。怪しい動きは許されない」

陰謀論者のマードー・ミステリー『星陰りて、謀り響く』。開幕です。